

2017(平成29)年3月期 第1四半期決算補足資料

(2016年4月1日～2016年6月30日)

1. 2017.3期 第1四半期実績

(百万円)

	'17.3期1Q 実績	'16.3期1Q 実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	8,275	7,762	+512	+6.6%
営業利益	379	883	-503	-57.0%
経常利益	410	1,377	-966	-70.2%
四半期純利益	287	1,032	-745	-72.2%
研究開発費	2,292	1,778	+513	+28.9%
研究開発費率	27.7%	22.9%	+4.8pt	-
営業利益率	4.6%	11.4%	-6.8pt	-
1株当たり四半期純利益(円)	5.06	18.18	-13.12	-
期中平均レート(US\$/円)	108.25	121.37	-13.12	-

<第1四半期実績と前年同期実績との増減要因>

売上高: 円高や薬価引き下げの影響を受けたものの、海外医薬品の数量増や国内医薬品の前倒し出荷などにより増(+512)収。なお、売上高全体への円高影響は約-300百万円。

- ・国内アルツは、市場全体が微増で推移するなか、医療機関納入本数が新容器投入や販売提携先の拡販努力により増加(前年同期比 市場+1.3%、アルツ医療機関納入本数+2.8%)。当社売上は、薬価引き下げの影響を受けた一方、前倒し出荷があったことから増加。
- ・米国向けジェル・ワンは、営業体制拡充効果により、現地販売が約3割増加。当社売上も、円高影響を数量増でカバーし増加。
- ・米国向けスパルツFXは、競合環境が厳しく、現地販売は微減。当社売上は前倒し出荷があった一方、円高影響を受け微減。
- ・中国向けアルツは、政府の価格抑制策等の影響により、現地販売、当社売上ともに減少。

営業利益: 円高や薬価引き下げの影響を受け、原価率が上昇(+2.6pt)。米国SI-6603のオープン試験進展による研究開発費の増加もあり、減益。なお、減価償却費は725百万円(前年同期比-47百万円)。

四半期純利益: 投資有価証券売却益の減少や、円高進行に伴い保有外貨建資産に関する為替評価損を計上。米国子会社の利益貢献割合増加に伴う税率上昇(前年同期比+5.1pt)もあり、減益。

2. 2017.3期 第1四半期事業セグメント別売上高

(百万円)

	'17.3期1Q 実績	'16.3期1Q 実績	前年同期比		(参考)	
			増減	増減率	'17.3期予想	'16.3期実績
<b>【医薬品事業】</b>	<b>6,770</b>	<b>6,317</b>	<b>+452</b>	<b>+7.2%</b>	<b>24,300</b>	<b>25,518</b>
国内医薬品	4,659	4,388	+271	+6.2%	15,900	16,928
海外医薬品	1,834	1,607	+227	+14.1%	7,350	7,300
医薬品原体	275	321	-45	-14.3%	1,050	1,289
<b>【LAL事業】</b>	<b>1,505</b>	<b>1,445</b>	<b>+59</b>	<b>+4.1%</b>	<b>5,250</b>	<b>5,444</b>
合計	8,275	7,762	+512	+6.6%	29,550	30,962
(海外売上高)	2,989	2,738	+251	+9.2%	11,400	11,581

3. 通期業績予想と進捗率 (2016年5月12日に公表しました予想に変更はありません)

(百万円)

	'17.3期 予想	'16.3期 実績	前期比		'17.3期1Q 実績	進捗率
			増減	増減率		
売上高	29,550	30,962	-1,412	-4.6%	8,275	28.0%
営業利益	1,000	2,144	-1,144	-53.4%	379	38.0%
経常利益	3,350	3,500	-150	-4.3%	410	12.3%
当期(四半期)純利益	2,550	2,578	-28	-1.1%	287	11.3%
研究開発費	8,400	8,649	-249	-2.9%	2,292	27.3%
研究開発費率	28.4%	27.9%	+0.5pt	-	27.7%	-
営業利益率	3.4%	6.9%	-3.5pt	-	4.6%	-
1株当たり当期(四半期)純利益(円)	45.00	45.39	-0.39	-	5.06	-
期中平均レート(US\$/円)	110.00	120.14	-10.14	-	108.25	-